

今 東光 (こん・とうこう)

1、プロフィール

「お吟さま」で直木賞獲得。文壇に返り咲き、＜河内物＞など小説を精力的に発表。岩手県平泉の中尊寺貫主。参議院に当選、タレント議員として話題を呼び、毒舌家としても有名。

<生没>

1898(明治 31)年3月 26 日 ～ 1977(昭和 52)年9月 19 日

<代表作>

『痩せた花嫁』『お吟さま』『鬪鶏』『山椒魚』『春泥尼抄』『一絃琴』『河内風土記』『悪名』

<青森との関わり>

父武平、母綾は共に弘前の人。その長男。作家今日出海は弟である。

2、作家解説

父が日本郵船の船長であったため、一家は函館、小樽、神戸など転々と居をかえた。横浜生まれ。第2人、末弟が今日出海である。中学のとき問題をおこし、二度退学となる。やがて詩や創作の筆をとるようになり、佐藤春夫、谷崎潤一郎、川端康成らを知る。

大正 10 年第6次「新思潮」に川端の支持で参加、短編を発表。また菊池寛の面識をえて、大正 12 年創刊された「文芸春秋」の同人となる。大正 13 年「文芸時代」創刊に参加し、清新な作風で注目された。ゴシップ記事に端を発して菊池寛と対立し「文芸春秋」を去り、やがて「文芸時代」からも脱退。大正 14 年「不同調」に参加、村山知義らと「文党」を創刊。昭和4年、関心のあったプロレタリア作家同盟に加入「戦旗」に戯曲を発表する。

昭和5年出家剃髪し、天台宗延暦寺派の僧侶となり2年間比叡山に籠る。のち各寺の住職を勤めながら、いくつか文芸作品を発表はしたが、文壇からは遠ざかった。

しかし、裏千家家元の機関誌「淡交」に連載した「お吟さま」で第36回(昭和31年下半年)直木賞を受け、文壇にカムバック、以来<河内物>など盛んに小説を発表する。主な作品に『鬪鶏』『山椒魚』『春泥尼抄』『一絃琴』『河内風土記』『悪名』がある。谷崎潤一郎の数少ない弟子であったことでも知られる。

昭和40年、権大僧正となり平泉中尊寺貫主。昭和43年、参議院議員に全国区から立候補して当選、タレント議員として話題になった。

3、資料紹介

○『お吟さま』

図書

1958(昭和33)年10月10日

175mm×115mm

切支丹大名高山右近との愛に生きる千利休の娘お吟の悲劇的な生涯を描く。物語のスタイルは彼女の侍女が語るかたちをとる。伝統的な”ものがたり”形式により一種の擬古典主義の匂いをただよわせている。